

令和八年度 文学部 日本・中国文学学科 学校推薦型選抜 小論文②

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に縦書きで記入すること。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。
- 5 この冊子は、問題用紙（三頁）および解答用紙（二枚）からなっている。
- 6 この冊子のうち、落丁・乱丁、印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 7 句読点やカッコ、数字はそれぞれ一字として数える。
- 8 満点は二〇〇点である。ただし、二五〇点に換算する。
- 9 試験時間中の退室は認めない。
- 10 問題と下書き用紙は、持ち帰ること。

次の文章は後深草天皇に仕えた女官の日記で、吉田祭への使いの任務を済ませて帰参するときの記録である。これをよく読んで、本文の内容を要約した上で、そこからうかがわれる伝統や先例に対する筆者の考えを記し、それに対する自分の意見を記せ。解答は解答题紙の範囲（七〇〇字）内に記すこと。（100点）

十七日、雪なほいと深う積りしに、吉田の使つかひに立ちて、帰かへさに、主基方しゆきがたの女工所にょくどじろの事がらゆかしくて、「そなたさまへやれ」と申し侍りしかば、公役くやくためもち、かねとも、六位の車の供の者なども、夜更けてはるかにめぐらん事、かなふまじき由申し侍りしかども、せめて尋ねまほしさに、「吉田の使の帰りには、必ず女工所へ立ち入る式にてあるぞ」と申し侍りしかば、「まことにさる先例ならば」とて、はるばると尋ね行きたりしに、衛士ゑしが門をおそく開け侍りしに、「今に初めたる事か。吉田使の帰さに内侍の入れ給ふに、事新しく開けもまうけぬか」と、荒らかに諫め申し侍りしも、かやうの事や先例にもなり侍らんとをかしくて、弁内侍、

訪とはましや積れる雪のふかき夜にこれも昔の跡と言はずは

（『弁内侍日記』による）

（注）○吉田の使……毎年催される吉田祭への朝廷の使い。祭場の吉田神社に遣わされた。○主基方の女工所……大嘗祭だいじょうさいとい

う神事のため大内裏に設営される装束を調進する部署。○公役ためもち、かねとも……ここでは使いの仕事に従事してい

た者。「ためもち」「かねとも」は人名。○式……きまり。

(余
白)

二

次の文章をよく読んで、本文の内容を要約した上で、魏徴の主張とその根拠を明らかにし、その主張に対する自分の意見を記せ。解答は解答用紙の範囲（七〇〇字）内に記すこと。（100点）

貞観十三年、太宗謂侍臣曰、朕聞、太平後必有^ニ大乱、大乱後必有^ニ太平。承^{クル}大乱之後、即是太平之運也。能安^{ンズル}天下者、惟^ダ在^ニ賢才。公等既不能知^ル賢、朕又不可^ク遍^ク識。日復一日、無得^ル人之理。今欲^ス令^メ人自^ラ挙。於^テ事如何。魏徴曰、知^ル人者智、自知^ル者明。知^ル人既以^テ為^ス難。自知^ル誠亦不^レ易。且愚暗之人、皆矜^ヒ能^ニ伐^ス善。恐^ク長^ク澆^ム競^ム之風。不可^ク令^メ自^ラ挙。

（『貞観政要』による）

（注）○貞観……唐代の元号。 ○太宗……貞観年間に在位した皇帝。 ○魏徴……太宗に仕えた政治家。 ○澆競……乱れ競う

ハナ。